

持続可能地域共創研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>2021 年度に始まったプログラムであるため、まだグランドデザインと最終的なゴールが確立されていないような印象を受けた。しかし、今後の日本社会を考えるには大変良いプログラムであり、地域のステークホルダーと直接対話を繰り返して具体的な研究を手探りで進めているなど、他のプロジェクトに比べ難しい面はあると推察するが、高く評価する。</p> <p>このプログラムは、技術革新を出発点とする他のプログラムのいくつかを補完している。ボトムアップで上がってくる問題に関する地方自治体との関与と、研究者の新しい役割へのアプローチに関する実験は、国環研の今後の研究の筋道を立てる上で重要である。</p>	<p>本プログラムの特性を深くご理解いただいた上で高くご評価いただきありがとうございます。ご期待に沿えるよう、研究を推進します。</p>
今後への期待など	<p>地域のステークホルダーとの対話を通してモデルになるような地域共創の方向性をさぐるのは、大変意義のあることかと思う。まだ始まったばかりであり、まずはやりやすい地域で始めるのは理解できるが、今後、他の地域への外挿性や展開の展望について聞きたい。</p> <p>2021 年度に始まったプログラムということで、現時点では成果を刈り取る段階ではないと思われ、その下地を作っている段階と思われる。今後の成果に期待したい。</p> <p>産業構造自体は変えないことが前提とのことだが、本質的な脱炭素とその定着には構造の変化が必要とである。国や地域の政策に関わることなので、プラン B、C などの形で取組まれることを期待します。</p>	<p>今中長期計画中は、これまで別の地方で研究実績がある技術方策などを、対象とする 2、3 の地方自治体（奥会津、五島など）に適用・応用し、その受容可能性などを検討することが主となると想定しています。その個別対象地区の事例を基により一般的な横展開の可能性を検討するという方針です。</p> <p>ご理解、ご評価いただきありがとうございます。ご期待に沿えるよう、研究を推進します。</p> <p>産業構造についてのご指摘はもっともです。国内の将来シナリオ作成は脱炭素 PG で行っており、そのシナリオを参考に検討します。なお両 PG メンバーを兼ねている研究者がいますので、PG 共同で研究を進めていきます。</p>